

つぶやきがんちゃんの

# 生活知恵袋



せいいかつちえぶくろ

Vol. 115



一生懸命  
つぶやきます  
齋藤廣勝 (さいとう ひろかつ)  
株式会社トータルライフサポート代表取締役  
・CFF®ライティファイアードファインシャルプランナー  
・1級ファイナンシャルプランニング技能士  
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師  
・住宅ローンアドバイザー  
・金融広報アドバイザー

## ●決断・行動するとき

誰にも、どの家庭にも、様々な問題や課題、悩み事や困り事など大なり小なりあると考えられる。それに対処するには、その問題の原因を究明し、改善・解決の方法を見つけ決断し、行動しなければならない。場合によっては、それが内在しているにも拘らず見えいないことさえあるものだ。この見えていない場合が問題で、気付いたらもう既に遅かったということになりかねない。

”気付いたら遅かった”で思い出したのが、ミルトン・マイヤー（1955年）の著書『彼らは自由だとと思っていた』の中で、ドイツ人牧師であり反ナチ運動組織告白教会の指導者「マルティン・ニーメラー」の言葉に由来する詩を引用した次のようにあります。『ナチスが共産主義者を弾圧したとき、私は何もしなかった。なぜなら私は共産主義者ではなかったから。次に社会民主主義者が弾圧された。それでも私は何もしなかった。なぜなら私は社会主義ではなかったから。次に、学校が、新聞が、ユダヤ人が弾圧された。私はその度に不安になったがやはり何もしなかった。そして彼らは教会を攻撃した。私は立ち上がり、何故なら私は教会の人間であったから。しかし、その時は既に過ぎた。』というものである。事の所在は全く違うが、何かをするべき時の行動を考える“という点では学ぶこともあり、私たちの日常や人生の分岐点では参考になるかもしれない。

今月号はいつも増して理屈っぽいと、自分でも思っているが、正月くらいは自身の家計や将来の展望について真剣に考えて良いのでは…。

今月のテーマ

## 新年を展望し、決断・行動へ

この原稿を書き始める数日前のこと、異変が起きた。夜中の3時頃だというのに突然目が覚めた。日頃、ベッドに入って本でも読んで寝ようとしても、1ページも進まないうちに、その本は顔の上に乗ったまま朝まで爆睡というパターンなのだが、いったいどうしたことか…。何か神のお告げか…！いやいや、日ごろから信心深くもないし、どちらかというと罰当たりなタイプなのだが、いったい何がどうしたというのだ…。いつも、寝ている間は電気を付けていないので真っ暗な闇の中だ。水を打ったような静寂な時が流れていく…。闇と静寂の中だからこそ見えてくるものもある。それを引用した印象的な言葉も思い出されてきたが、後に書くことにしよう。

その後、睡魔は訪れるることも無く、頭はぱっちりと冴え、過去の出来事や様々な想いが止まることなく湧き出してきた。次から次へ、まるで走馬燈のごとく、もしやお迎えが近くなったのか？とさえ思ってしまう。どのくらいの時間が経過したのかは覚えていないが、2、30分どころでないことは確かだ。夢の中での出来事や、うつろな意識の中で考えたりしたことは、朝には忘れてしまっていることもよくある。これは書き留めておかないとと思い、メモ用紙とペンを取った。これから先に書けば良いのか忘れないうちにと、焦りながら書きなぐり結構な量になった。“これは、「エー・クラス」の原稿に使える”というのもいくつかあった。俺の頭はどうにかなってしまったのか？どうやら夢でもないようだし、何が起きたのか分からぬまま筆を走らせてている。この所、少し無理もあって“疲れているのか”などとも考えながら、静寂な中に時は流れていった…。カーテン越しの外は、少しだが白んできたようだ。これは完全に寝不足だと思いながら筆を置き、布団をかぶった。いつもの時間に目覚ましが鳴り、メモ用紙がある筈の場所に手を伸ばすと…。あった。メモも残っているし、夢ではなかった。寝不足感はあるものの爽快な気分だ。

ところで今月号の内容は、先月号で途中だった“2つの特約”について説明するはずであったが、この時既に内容は変更することにした。今月号は、そんな出来事に鑑み、一夜の出来事で思ったことの一つ「自身の人生のある決断」にまつわることを書いてみたい。新年を迎えることもあり、人は人生の中で決断すべきことがある！続きを待っていた方には、お許しいただきたい。

## 保険と暮らしの相談センター

相談メニュー

- 家計の総合診断(ライフプラン)
  - 保険加入・見直し(生命保険・損害保険)
  - 住宅取得、住宅ローンの見直し
  - 子どもの教育資金計画
  - 年金・老後資金計画
- 相談料は無料です!!

お気軽にご相談ください。



株式会社 トータルライフサポート

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

●営業時間／9:30～18:30(土・日・祝9:30～17:00)

●定休日／水曜日

TEL 018-827-7611

Fax 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>



詳細はホームページでもご覧いただけます。



## ● 何故に理屈っぽいか…?

それというのも普段から相談業務に携わっていると、時々慣れややるせなさを覚えることがある。相談に来られる方の中には、拙速に答えだけを求めてくる方もいる。そういう場合には一般論としての方法論を紹介するしかない。例えば”相続税を減らすにはどうしたら良いですか？”と問われても回答は難しい。別の例えをすれば、”病院に行って”熱を下げたいので薬を処方してください”と言つようなものだ。勿論、その熱がどこから来ているのか、診察や検査をしなければ分からないし、薬の処方もできない。

「ファイナンシャル・プランナー（FP）」が回答するのも同様だ。FPは「家計のホームドクター®」である。時には家計の健康診断を行い、現症に対

しては、とりあえずの対症療法の提案するが、根本的な解決を図るには生活習慣や家計管理の改善なども提案をすることとなる。FPって面倒くさいと思わずに、「家計のホームドクター®」として、お金の悩みや今後の不安をじっくり聞かせてほしい。

## ● ある日の決断（転職）

この度の原稿は、一夜の出来事に基づく私事が多いため、お正月号に免じてご勘弁願いたい。（あまり関係ないか…）なぜ、私事をこのような形で書いているのかというと、皆さんの中にも様々な悩みや問題を抱えながらも、闊々としている方が決して少なくないのではないかと考えるからだ。”面倒くさいやつ”との思いや、何を持つてそつなのかも、「つぶやきがんちゃん」なる人格の推察も樂しんでいただければと思う。自身の経験談が少しでもお役に立てば嬉しい。

それは私がまだ30代、最初の職業に就いて十数年経ったある日の出来事だ。一定のキャリアを積み、新人の時は仕事内容も変わり、色々と感じ始めてきた頃の話である。一サラリーマンではあるが、変わりゆく業界の中で、将来の展望や、自身の将来を考えた場合、どう考えてもこのままではダメだと思った。生き残り、勝ち残りを果たすためには変わらなければいけないことや、社内体制の整備が不可欠だと考えていた。意を決し、会社に改善提案を提出したが、その回答は待てど暮らせど、一向に得られなかった。自分の提案に魅力がないのか、はたまた、的を外れたものだったのか…?もう

一度提案内容を読み返し、再度の提案書を作成し、背水の陣の想いで提出をした。しかし結果は、またもや”なしのつぶて”。“万策尽きたり”か、もはや成す術はないのか…。転職をも考えつつ、同僚のことや自身の住宅ローン返済など、家計の安定を考へると、想いは決死の覚悟であつたにも拘らず揺れていた。

そんな毎々とした日々が続いていたある日、決断の日は突然訪れた。それは、千葉県に出張中、十九里浜の海岸に車を止め、早朝の仕事を向けて車中で一夜を明かすこととなつた時のことである。狭い車内での仮眠中、なかなか寝付けずラジオを聴いていたら、かの有名なニニロッソの「夜空のトランペッタ」が漆黒の闇の車中に流れてきた。これが数日前の夜中3時頃の出来事とリンクするのである。

透き通るような夜空を突き刺すトランペッタの響きは、否応なしに齋藤青年の心を揺さぶり、うつろな意識を完全に覚醒させてしまった。この曲は、その後自分にとっては「夜空のトランペッタ」ならぬ「夜明けのトランペッタ」となる…。かねてより悩んでいた”今後の身の振り方”について、改めて思い起こされて来た。どうあるべきか、”どう生きるべきかを明確に出来ないまま、闇の中での時は過ぎていき、九十九里の東の空が少しづつ赤く染まってきた。

日の出が近い。人生で初めての海から登る朝日をこれから見ることとなるのか…。きたつ、初めて見る太平洋からの日の出は、あまりにも衝撃的な美しさだった。そしてこの瞬間、人生初の転職の決断に至つた。吹切れた。何がどうより、何がが始まり何かが出来そうな気がしただけだった。



## ● 見えないものを見る

人の目や耳は、視力が同じであれば誰もが同じように見えるし、聞こえているはずだ…。しかし脳といつも見えていても、聞こえていても、興味・関心が無い事は感じてくれない。そればかりか、見たくないことや聞きたくないことに対しては、あえて排除してしまう。問題点の発見も家計の改善も、本当は薄々分かっていても、現実から逃避してしまうこともある。何を隠そう、偉そうに講釈を垂れている私自身も弱い人間である。そんな人間が皆さんに決定・決断を促す訳で、お前から言われたくないと思われるかもしれないが、避けて通れない現実があることは受け止めていかなければならない。

人が何かをしようとする時には、何かのきっかけがあつたりすると始めやすいものだ。新年というタイミングで人生設計について考えてみるのもいいかもしれない。ましてや、2019年はイノシシ、猪突猛進と行きたいものだ。

## ● 行動へ

その後、意を決し辞表を提出。会社のトップは血相を変え、提案プランの件を持ち出した。”あなたの提案はもつともだ、会社としても早速取り組むし、あなたの将来に対しても約束をする”と慰留されましたが”時すでに遅し”一九九里浜での決意は

変わらはずもない。先に紹介した「マルティン・ニーメラー」の「氣づいた時には既に遅かった」である。何が言いたいかといふと、手遅れにならないためにはシグナルが出た段階で、早めの対応が必要だということだ。人が決断するには、時として偶然にも訪れることがある。迷うことに対し、新年に改めて考えてみると”人が決断し行動するきっかけになるのでは”という想いである。

私自身は過去2回の職歴を経て、その後に起業し現在の職業に至っている。職業の選択は、その後の人生や生活設計、とりわけ経済上の問題とも密接に関わってくるだけに大きな問題だ。安易な転職は、大きなリスクを抱え込むことにもなってしまうし、決して転職をおおつもりもない。ただ、現状の打開とステップアップを目指し、自らが道を切り開くという点での職業選択は大きな意味を持つ。あらゆる可能性を考え、新年を迎える時くらいは過去の振り返りと、将来の展望を改めて考えても良いのではないだろうか…。

## ● 来月号は

寄り道ついでに、来月号はもう一回だけ、物の見方・考え方について寄り道をしてみよう。